

陸軍省



戦時に於ける獨乙陸軍の軍事科學工作

(戰史研究)

昭和十六年一月

參謀本部第四部

1524

本記事は獨乙フォン・ベリー大佐及クレチユマー大佐の講演要旨にして戦史研究に關し参考とすべきものあるを以て關係方面に配布するとせり

1525

戦時に於ける獨乙陸軍の軍事科學工作（戦史研究）

獨乙 フォン・ペリー大佐

興味深い戦闘行動に關して私自身の體驗を申上げることの出來ませんのは甚だ残念であります。是は各自の境遇が色々に分れてゐるからでありまして或者はマースを越え更にシエルデ河をそして又ラインを渡つて戦勝を收めつゝフランス内に進入したのであります。が他の者は銃後にあつて机上筆紙の戦争に没頭する有様であります。私は残念乍ら此の後者に屬して居りましたので餘り興味の無い方面の戦時體驗に話を限定しなければなりません。然し此の際私は我々も亦その微力を盡して全體のために寄與する處があるとの確信を皆様に抱かせることに成功するかも知れません。

私が所屬してゐます陸軍參謀本部第五部は軍事に於ける科學工作指導の任務を持つて居ります。一體軍事科學とは如何なるもので且それは如何なる事を爲さねばならぬものか

結局總力戦にありましては凡ゆる科學が國土防衛の役目につかなければなりませんこの事は特に技術に役立つ一切の分科に當てはまります此等の分科は戦争器材の完成と増加の爲に活動します然し此の點に關係を持つのは參謀本部ではなくて經濟及軍需の官衙でありまして陸軍に於ては兵器本部が此の事に携はつて居ります

參謀本部第五部の一部では戦史編纂の仕事と戦争經濟の利用と言ふ仕事が行はれてゐます私は此の點に就て若干御話申上げたいのであります

か  
今次戦争間に於ける戦史研究の仕事は何を目的として行はれてゐるか

現在行はれて居ります戦争にとりましては我々の仕事の意義は自然低いものでありまして戦争が數年間も繼續するやうなことになるなければ目立つた効果の顯れない仕事であります然し戦争が長期に亙る事は先づないのでありますし又我々と致しましても餘り長くかゝらない

事を希望して居ります。もしこの期待が當りますれば私共の活動は主として戦後に於ける平時教育に役立つものでありまして結局は後日何時か勃發すべき戦争の準備として役立つものであります。私共は長い平和を望むものではありませんが而も新しい戦争の爲にも亦再び備へねばなりません。「勝つて兎の緒を緊めよ」と言ふ古い諺が我々に警告を與へます。

適時効果を發揮した正しき軍事科學工作の良き例は一八六六年の戦役後元帥モルトケ伯によつて示されました。戦争終了後一ケ年にして既に參謀本部編纂の戦史全部は完成致しました。その翌年には最も重要な經驗のみを集めましたものが所謂「回想録」の形で出來上りました。更にその翌年には此等の經驗が「上級指揮官用教令」の中に收められました。つまり參謀本部は戦後三年にして既に該戦役の經驗の科學的利尸法を教範の形式で上級指揮官に手渡したのであります。次の戦争は一八七〇年に勃發致しました。前の戦争からたつた四ケ年經過し

たばかりでありました。斯くの如く近接してゐたにも拘りませず戦争の經驗を平和の一年間に亙つて教育上利用するまでに軍事科學工作を促進せしめることが出来ました。

世界大戦と大獨逸解放戦との中間の期間では大戦の經驗を斯くの如く急速に利用すると言ふ譯にはとても参りませんでした。之に要する組織と言ふものが全然ありませんでした。復員の際には參謀本部には戦史關係の部が四部設けられたのでありますがヴェルサイユ條約は此等のものを參謀本部と一緒に破壊し去つたのであります。その結果世界戦争に關する公開の戦史編纂はライヒス・アルヒーフと言ふ非軍事機關の手に委ねられました。大方は參謀本部に屬してゐた退役の將校が記録官としてこの組織の中で戦史編纂事務に従軍しました。が今日尙未だ完結に至つて居りません。大戦最後の年即ち一九一八年の記述が終りませぬ迄には未だ若干の時日を要する事と思ひます。

以上の如くにして世界大戦の軍事科學的利用は一八六六年にモルトケ

によつて示されました前述の模範的な方法に劣ること數段であります然し之とても決して無駄な仕事ではありませんでした 否此の經驗を利用する仕事は敵國側に於けるよりも遙か以上の成功を収めたのであります 敵國側にあつてはヴェルサイユ條約は彼等から參謀本部を取上げはしなかつたのですから此の仕事は遙かに容易な筈だつたのですが

大戦の經驗からして將來の戦争が如何なる本質のものなりやの正しい觀念を引出す仕事は夫れ自體頗る困難なものであります 先づ各年次に於ける事件は頗る多彩な畫面を見せてくれます 例へばフランスに於ける開戦直後の數週間の如き又ロシアに於ける數次の戦役の如き或は又バルカン半島に於ける戦役の如き經過迅速なる若干の作戦やその外際限のない陣地戦がありました 例へばタンネンベルグに於ける殲滅戦の勝利の如きもありましたが又それと並んでソナム會戦やフランドーアの會戦の如くに明白な成果を収め得なかつた神經消耗の資材

消費戦がありました。ゴルリッツ及トルマインの突破作戦の如く成功した突破があるかと思へば之に反して獨逸軍の行つた一九一八年初頭の攻勢の如く單に第一線を彎曲せしめたに過ぎぬ。大攻勢の數々が見られます。同時に又技術は戦後迅速に發達しました。地上用及空中用の發動機の發達は從來考へられてゐました運動性の概念を覆へしてしまひました。

此の點に於て軍事科學にとつて困難な任務が生じて來ました。即ち世界大戰の經驗をば技術的發展が示唆する新しい道と調和せしめる事が是であります。フランス軍は此の調和を見出す事に成功しませんでした。彼等は世界大戰の經驗は變化せる狀況に於ても繰返し斯くあるものと考へてゐました。彼等は常套の慎重な遣り方やその一定の方法によつて一歩一歩進む遣り方と言ふものに餘りにも一方的に頼りすぎたのであります。彼等はナポレオンやモルトケが行つて大成功を收めたやうな大膽な作



戦は最早時代に適せずと申しました

來るべき戦争の経過に關して誤つた觀念を抱くことが如何に宿命的な結果を惹き起すかと言ふことを示す最も適切な例は全戦史を通じフランス軍に於て程容易に見られる事はありません。蓋しフランス軍の不可解な全措置は防禦の征服し難き力に就て獨斷を抱いてゐたと言ふ事からのみ説明され得るからであります。若しそうでないとすれば開戦第一年の間に行はれました事を如何に理解すればよいのでせうか。フランスは明かにポーランドを援助せんとして獨乙に自ら宣戰を布告したのであります。併し其の後フランス陸軍は徒らに銃を立てたまま悠然としてポーランドの片附けられる有様を見て居りました。獨乙に對しては一度だつて空襲を敢行して同盟國の負擔を軽減せしめやうとは致しませんでした。其の後に於てもフランス軍は自ら何等積極的に行動する事なく遂に獨乙軍から攻撃せられる迄無爲に過したのであります。

1532

獨乙軍主力がポーランドに引きつけられてゐた時何故フランス軍は攻勢を採らなかつたのでありませうか

恐らく彼等はワイクセル河やブーグ河の線の如きポーランド内の築城地帯に於て獨軍は世界大戦の時と同様に陣地戦に陥るものと確信し且そうなれば對獨封鎖によつてドイツを充分に弱めて世界大戦當時と同様に之に止めを刺してやるのはたゞ時日の問題であると考へてゐたのでせう。フランスと其の盟邦英國は、何等急ぐ必要はない二年、三年、四年否夫れ以上數年間待つことが出来るのだ。大した事は起るものか西方の列強はマジノ線の背後に控へてゐて絶対に安全だ。絶対に衝かれる心配なしと考へてゐました。だが他方フランスは何を爲すべきだつたのでせう。獨乙西部の築城を攻撃すべきだつたのでせうか。だが之は既に述べたのと同様の考へで獨乙軍のマジノ線攻撃が不可能なるが如く不可能である。突破は不可能であると言はれてゐました。つまり以上のやうな譯で封鎖が効力を發揮するまで待つべしと言ふ事

が言はれてゐたのであります

英軍の參謀本部も亦フランス參謀本部と同じやうな考へ方をしてゐた模様であります。でなければ英軍は世界大戦の時と同様にもつと努力して強力な國軍を整備して戦争の災禍を敵に加へる如く勉めた筈であります

過去數十年に亙る世界の軍事科學文獻を調べた者は次の事を確かめ得たでせう。即ち凡ゆる國には正しい事を豫測してゐた人達が居て反對論に對して抗爭致しました。世界大戦後間もなく例へばイタリアのドウエー將軍は空軍の卓越した重要性を證明せんものと試みましたが併し例へばアレアウ將軍の如きフランスの著作家はドウエーの見解が如何に謬りであるかを證明せんとして努力してゐたのであります。装甲部隊を使つて佛國內に電撃戦を行はんとすることはド・ゴールの豫見する處でありました。このド・ゴールこそは今日アフリカに於て好しからぬ動きを見せてゐる其の人であるのだ。英軍に於て同じ事

を叫んだのはハルラー將軍と著作家のリツデル・ハルトでありました。若しも彼等の祖國が苦悶に呻吟してゐないならば彼等は自分の豫見が如何に正しかつたかを誇つて吹聴することでありませう。だが彼等の聲に耳を傾けた同國人は餘りありませんでした。彼等が其の事に就て嘗くのを放置して居りましたが併し英佛の官邊では之を眞面目に探らず空想であると見做して居りました。若しも前佛蘭西軍參謀總長ドブネーの如き重要人物が之を書いたとしましたら人々は全然異つた見解を持つたでありませう。

之と反對に獨乙の參謀本部から出てみます『軍事科學評論』を研究してみますと様子が一變するのであります。この雜誌は參謀本部が再建されました時に再び發刊せられる事になつたものであります。再刊後の數年間は未だ防禦の問題が主として取扱はれて居りまして之は獨乙の當時に於ける軍事政策上の位置に適應して斯くあつたのであります。陸軍が一般徵兵制による再建の初期の段階にありました間は未

だ攻撃方法に就て考慮を拂ふことは出来なかつたのであります

我々が此の雑誌に出て居ります諸論文を讀みますと世界大戦の陣地戦から生れた融通の利かぬ硬化した防禦の概念を計畫的に克服してゆきつゝあることが分ります此の防禦思想の代りに積極且機動的な防禦が讀者の眼前に浮ぶのであります

既に同誌發行の二年目から攻勢の計畫的高揚、攻撃精神の顯著な涵養と言つたものが認められます

我が軍の文獻に於てはマジノ線に膠着する様なことは考へられて居らず如何にして之を突破するかと言ふ問題が研究せられました此處では一九一四年八月に於けるリュージヨ要塞に對する奇襲の研究が他のものと並んで進められてゐるのを見ます

偉大な先輩シュリーフエン伯の二十五回目の命日には本誌の讀者は附録として「シュリーフエンの遺産」と稱する小冊子を受取りました

參謀本部では此の附録を以て一般の注意をその直前參謀本部より發行

されましたシュリーフエシ伯の文集に向けしめました。この殲滅戦思想の主張者の思想の進展を深く研究することは四ヶ年に亙る陣地戦が此處彼處に生み出しました如き根強い偏見を一掃する上にこの上もなく卓れた方法でありました。

勿論参謀本部が軍事科学雑誌で一理論を発表するだけでは充分ではありません。全陸軍も亦實際に之と共に進まなければならぬのです。教範や演習施設が此の理論に適應しなければなりません。實踐が理論を補はねばならないのです。だが軍事科学はそれにも拘らず正しい道が踏まれて来た功績の一端を擔ふものであります。

軍事に於きましても人間活動の他の領域と様子は異なるのでありまして大成功の陰には悉く科学的な精神工作の耑本な部分が横たはつてゐるのであります。

この考へは第一線で戦ふ機會に恵まれなくて寧ろ銃後にあつて今次戦争の經驗の科学的利用の途を講ずると言ふ目立たない仕事に従事し

て居ります者凡てにとつて慰めとなります

惣この軍事科學研究の仕事を尙詳細に觀察しませう

第一の仕事は實際に事件が如何に起きたかと言ふ事を非の打ち處ない程に確かめることとであります。大隊までの各本部及各部隊は陣中日誌或は一平穩な時であれば一行動報告と言ふものをつけるやうに規定してあります。下された命令、入手した報告、状況要圖其の他の勤務上の諸資材はこの陣中日誌に記入されなければなりません。此の全資料は個々の作戰終了後本國に送られます。

此の事は世界大戦中にも行はれました。當時は斯様な文書を受取るために『戦時文書検査所』と言ふのが設けられました。此處では戦地から入つて来る日記其の他のものが集められ保管されました。

今日では此の仕事は陸軍記録部の長官の手に移りました。この陸軍記録部は夏年前に初めて設けられたもので以前には獨乙に全然存在しなかつたものであります。陸軍記録部の長官は凡ゆる勤務上の文書を

集め現代の記録に屬する凡ゆる資料の一大収集所であります。この資料には告示、ピラ、壁書、前線新聞、映畫、レコード其の他あらゆるものがあります。

友軍の物の外に鹵獲した物が加はりますので今次の戦争に於きましては其の量は老大に上ります。我が部隊は迅速な戦闘経過の内に敵國首都に突入し更にそれを越えて前進致しまして敵の軍隊は悉く武器を棄てました。斯様な状況に於きましては自然多くの文書資料の鹵獲もありまして戦史研究上大きな価値があります。對手側の處置に對しまして豫め一瞥する處がありますれば事件の敘述は比較にならぬ程良く出来るのであります。

此の事は大戰後は或程度まで兩方の戦史研究家の自由意志による協力によつて成果を収めたのであります。然し成果を収めるやうになりましたのは比較的後の事に屬します。又當然地圖も必ずしも全部が全部明らかたにされはしませんでした。世界大戰時の古い敵國側も亦屬何



物も知らしてくれませんでした。我々獨乙側では例へばロシア側に於ける出來事に就ては知る處が極めて僅かなのであります。

鹵獲しました文書は悉く陸軍長官の管理する處でありまして時には鐵路上を進行する鐵道の車輛が悉くその管理に入つてゐる事があります。この長官の仕事は斯様に多數の書類を整理して適當の形式で之を戰史研究者の手に渡すことにあります。此の組織は立派に其の眞價を發揮しました。

戰史研究は既に開戦當初より活動して居ります。つまり此の度は前大戰時よりも早く仕事を初めてゐるのであります。仕事の仕方、仕事の計畫も今日は以前とは異つて居ります。前大戰の研究に當りましては戦争の年次が順々と詳細に記述されましたから最も教訓に富む戦争最後の年即ち一九一八年の記述は今次戦争が既に終了して後になつて初めて世に出るでせう。之は私の希望であります。

こんを講でありますから今次戦争の戰史的記録は全戰場に亘つて同

時に行ふやうに致しました。先づ比較的簡単な「戦略的概観」を立てます。此の爲には一般に師團まで下つた處の書類が検討されるのであります。りまして各國參謀本部の通常行ふ様を彼の詳細な敘述に比べます。之は遙かに迅速に運びます。戦略的概観を獲る際には聯隊又は大隊の戦時書類の検討は除外致されず。

併し同時に又出来るだけ早く戦術上の經驗を利用する爲には特に敘訓に富んだ各個の作戦又は戦闘行爲が抜き出されて詳細に敘述致され

○  
戰略的概観と必要な各個の作戰の記述が出来てから初めて愈最後に全戦役の詳細な研究が行はれるのであります

此の時に至つて問題になりますのは國防軍三軍中の一つだけの戦闘記述で果して戦争経過の充分な觀念を捉へ得るであらうかと言ふ事でありませす 之には次の様に申す事が出来ませす 即ち陸軍と海軍に關する記述は大部分の戦闘行動に於て譯なく分離する事が出来るが併しノールウェーに於ける戦闘の初めには此の分離は不可能であつたのでありませす 此處では陸上及海上の作戰が特に密接に組み合されてゐました もし英國に對する上陸作戰が行はれますれば矢張り斯様な状態でありませす

陸軍と海軍の戦闘行動よりも遙かに密接に關聯してゐますのは陸軍と空軍の戦闘行動の關係であります それでありますから公表すべき戦史は國軍の各部からではなく全國防軍から出さるべきだと謂ふ考へは尤もであると思ひます 之は新しい問題でありませす 前例の無い

事柄であります ヒットラー大統領が本問題に關して既に此の見解を表  
明されたかどうかは未だ私は知りませんが他日國防軍最高司令  
官たる同總統に依つて此の問題に決定が與へられるであらうと愚考致  
す次第であります

此の決定は未だそれ程急ぐ必要のないものであります 今の處は三  
軍各が各自各軍の爲に資料を集めねばなりません 我々は未だそこ迄  
にすら至つてゐないのであります 蓋し作戰（陣中）日誌と其の他の  
文書の検討が未だ済んでゐないからであります

今次戦争の戰史的研究に當りましては前世界大戰の研究に於て經驗  
せられました事が現在も亦繰返されてゐます 即ちそれは何かと言ひ  
ますと書類だけでは完全な觀念を得ることは出來ないのであります  
文書は「足らざるを補足する諸件の探求」を必要とするのであると言  
ふ事でありませう

之を如何に理解すべきでありませうか

書類を検討して見ますと明瞭を缺いた點や種々の矛盾が現はれて來ます。此の場合には其の當事者に説明を求める必要がありません。

此の點では現在我々は實に怠まれたる状態にあります。一方では世界大戦時の如く戦死者を多數に出しませんでしたし又第二には大部分の高級指揮官と彼等の參謀が未だ存命中であり更に獨佛停戰條約締結後陸上に現はれました長期の作戦休止に依つて首腦者達とゆつくり話し合ひ或は書面に依る教示を乞ふ事が出来るやうになりました。世界大戦中には斯様に簡單には參らなかつたのでありまして當時縦へ第一線は一時靜かでありまして凡ての指揮官や其の輔佐役の人々は殆ど非常に多忙を極めて居りましたから戦史上の教示を與へる事は出来ませんでした。更に又現在では俘虜となつた敵の多數の指揮官に不明な所があれば尋ねると言ふことも出来ません。

勤務上の日誌には往々にして決心の動機や經過が缺けて居りますから當事者に尋ねると言ふことは甚だ必要であります。一八六六年乃至

一八七〇年の陸軍指揮官でありましたフリードリッヒ・カール皇子が  
「考へ、疑ひをして最後に決心をつける人間の心の歴史」だと誠に通  
切な事を申されましたが勤務上の日誌には其のものが缺けてゐるので  
ありません

當事者としますれば行爲に先立つて行はれた意見の交換等を明白に  
書き止める事に或る種の氣後れを感じずるのも尤もな事であります。時  
には此の意見交換が可成り暴風的に行はれる事があります。此の様な  
時には尙更書き止めたく思はないものであります

元帥モルトケ伯は日誌及戦争書類の書き方に就て次の様に書いて居  
ります

「自ら歴史を作る者にとつては歴史を書く事は容易のことではない  
蓋し戦役は歴史的事件の公表さるべき如何なる描寫も内的動機、意  
見の動搖、決心の連續的進展の中に一瞥を投げて夫れを終局の結論に  
まで持つてゆく事は出來ないからだ。歴史的敘述には主動的思想が其

の儘完成したものと見て、抑の初めから現はれて来るのである。行動した當事者は一度も動搖しなものであり、彼等は實際に起つた事、其の事を常に欲してゐたのである』と

作戦日誌の不完全であるのは、其の當事者に時間が十分無かつた事に多くは歸するのであり、まして偉大な決心がつけられて直ちに行動に移された瞬間に於きましては、參謀は非常に多忙を極めますからして、此の決心をつける前に拂はれた考慮を書き止めるだけの時間がありません。今次の戦争に於きましては、世界大戦の研究に際して得ました經驗に基きまして、斯様な缺陷を除くべく、勉めたのであります。軍集團司令部及軍總司令部等の高級の司令部に多數の特別の日誌記載掛を配屬致しました。之には戦史研究の經驗者―主として世界大戦史編纂に従事した人々―選ばれました。此等の人々は後に戦史研究家が戦争記録中に何を求めるかと言ふ事を詳しく承知してゐます。ですから彼等は出来るだけの範囲内で、斯様の事項を實際に取入れる如く注意致します。

此の企てが十分の成功を収めるかどうかは日誌が利用し盡くされて後の将来に於て初めて分りませう

白日に曝すことを困難とする秘密は軍司令官と參謀長との間の關係であります。私は世界大戦後の文書研究に方り起りました頗る芳しからぬ論争を覚えて居ります。それはタンネンベルグの會戦に勝つたのは實際は誰であるかと言ふのであります。ヒンデンブルグかルーデンドルフかと言ふのであります。誰も此の問題には斷じて満足な解答を與へ得ないであります。蓋し司令官と參謀長は互に足らざるを補つてゆくものであります。極く稀な場合にのみ功績と責任とを兩人別別にはつきりと分けて負はせることが出来るだけだからであります。ヒンデンブルグは若し敗戦であつたら斯様な論争は決して起きなかつたであつたと申しましたが誠に其の通りであります。

長い間フランスの戦史研究上でマルヌの勝利者はジョツフルであるかガリエーニイ將軍であるかと言ふことが論争の的になつて居りました。



たが其の時ジョツフルも亦此のヒンデンブルグと同じ言を述べて居ります

うまくゆきましたときは自分の手柄であると主張する者が多いのであります ケーニヒグレットの會戰のありました後には一正確な數字は忘れて了ひましたが一實に多數の部隊が其の戰鬪報告中に於て會戰の運命を決したのは我が隊であると主張致しました 功名争ひは從來からの事でありませんが將來に於ても亦常に此のやうでありませう

戰史研究の任務は人間の作つた施設の不完全さを持つて出来るだけ真相を究める事でありませう

史實の調査殊に戰史編纂に方り常に忘れてはならない教訓の把握上非常に緊要なことは各階級の指揮官が最も重要な瞬間に於て當時の状況に就て如何なる觀念を抱いたかと言ふことを確かりと知ることでありませう 指揮官の決心を正當に評價して其の決心から將來の爲に學ぶ爲には以上の知識は絶対に必要なのであります

今次の戦争に於きまして此の上もなく放膽に遂行されました作戦に當つては指揮官は用捨なき前進に依つて戦果を擴大し殲滅戦最後の大勝利を得んが爲に再三、再四行はれました側面脅威の危険を忍んだのであります。斯様な状況にありましては之が研究に當ります者は當の司令部に於て或る決心が爲された其の時期に敵に關して如何なる觀念が抱かれてゐたかと言ふことを確かめねばならないのであります。例へば其の日の空中偵察の總結果を記入した地圖を参考に供すると言つただけでは未だ十分ではありません。否、一定の時間迄に責任の地位にある指揮官が之に就て何を知つてゐたかと言ふ事が大切であります。急速な進撃と之に依つて必然的に起つた司令所位置の頻繁な變換の爲に各個所の多數の情報は比較的後になつて初めて知られた有様でありました。此の事を今になつて後から正確に調査致します事は決して容易の業ではありません。

併しうまくゆきさへすれば戦史研究は指揮官の處置を批判的に評價

することの出来る資料を手に入れることが出来ます

今一つ他の問題は公刊戦史に斯様な批判的な批評をどの程度まで挿入すべきかと言ふ點であります

我々獨乙軍の偉大な師でありますモルトケは批判は控へ目の程度に爲すやうに教へて居ります 即ち『正しい歴史の敘述は最も鋭い批評である』と申してゐるのであります モルトケ自身一般に公表すべく定められてゐました公の敘述に於て常に『威信』を失はないやうに努力して居ります

私は冒頭に於きましてモルトケは一八六六年の戦争に關する參謀本部編纂の戦史が出来た後一年にして『回想録』を編纂せしめたと申し上げました 之には同戦役研究中に現はれて來た諸種の經驗が収録致されまし 國王に献上した原本に添へられました上奏文には次のやうな特徴ある文章が見られます 『一般公開用の著作には犯された誤ちを認めしめるやうに致さなければなりませんでした 斯様な誤謬を覆

1550

ひ隠すやうなことがあつてはなりません。が、そうかと言つて特に夫れを強調してもたらなかつたのであります。別に讃辭を呈しなくとも成功した事業、達成した成果、そして軍の勝ち得た榮譽は讃辭の對象となつたのであります。此處にあります回想録には之とは反對に殆ど非難ばかりが納めてあります。が之は非難せんが爲であつたり或は又諷刺か他の人であればもつとやまくやれたであらうと言ふことを暗示せんが爲ではあります。却つて將來の誤りを避けて災害を未然に防がんが爲なのであります。斯様な編纂は極く限られた少數の人に公開した場合に於てさへも往々にして人々の感情を害するやうなことになるまいと

一八七〇年の戦争に關する參謀本部編纂の戦史に就て編纂に従事した主要人物の一人ワルテンスレーベン伯爵は次の如く申して居ります。「未だ生存者の居る時に記述されたものであつてつまり或る種の顧慮を拂はねばならなかつたのであるからして多くの興味ある點には觸れ

ずに置かねばならなかつた。専門的な讀者や注意深い讀者は此處、彼處に間隙を見出されるであらうが決して不正の記述ではないのである。後年各箇所就て補足される事が出来るが併し別に正誤の訂正をしな  
いで済むやうな著作を出さうとしたのが予の主たる觀點であつたので  
あつて之は最後迄變らなかつた」と

事實後年部分的な補足が行はれました。獨乙の參謀本部では世界大  
戰勃發前の十年間に所謂『戰史戰術研究』と言ふものを發行しました  
此等の研究は此の參謀本部編纂史の一種の再編纂と言ふべきものであ  
りました。事件があつて後此のやうな長時日を経て公然と語ることは  
是認されたのであります。ですから例へば一八七〇年八月十八日に關  
する研究は何の臆するところもなく獨乙軍の犯した誤謬を明かに述べ  
てみるのであります。此の率直さは外國に於ては明かに力の自覺を表  
はすものとして受取られました。唯強者のみが斯くの如く率直に腹藏  
なく語ることが出来るのだと言はれたものであります。

1552

恐らくは今次戦争の作戦が輝かしい経過を辿つたに感じられまし  
た力の自覚は既に第一回の正式な戦史編纂に於て犯されたる誤謬をも  
亦慮する處なく語ると言ふ結果を生むでありませう。併し其の際に斷  
じて忘れられてならない事はモルトケが又誤謬の批評に就て述べてゐ  
る言葉であります。「自ら行動することの方が後になつて批評するよ  
りも比べ物にならない程困難であるから事件の渦中にあつて自ら決心  
を定めて其の決心を實行する任にある者にとつては其の事件を後にな  
つて評價することが僭越なことやうに見えるのである。通常全く  
目的に合せず且不合理の如く見えるのは其の動機や又事件進行に對し  
て現はれる數千の磨擦や困難やが見落され又棄てられて了ふからであ  
る。正しい批判は後から見た事件の経過や後になつて見られる状況の  
知識と言ふものを批判の標準にせずして此等の事件の當事者は其の行  
動に出た當時夫れに就て如何なる知識を有してゐたかと言ふことを究  
めなければならぬ。現状の詳しい記述は殆ど何時も正しい批判にと

つて非難すべきやうに見える處置が決して一瞥したときに思はれた程には不合理でなかつた事を示して呉れる』と

私は今一言したいと思ひます 即ち現在では戦史研究の仕事を担当してゐるのは誰であるかを申し添へねばなりません 収集した文書を利用出来るやうにして提供する陸軍記録所長官の事は既に申し上げました

今次の戦争を研究してゐるのは参謀本部の軍事科学課でありまして 此處では開戦以來十六名の年若つた將校が働いて居ります 此等の將校は殆ど凡て以前の参謀將校であります 戦史編纂の立場から申しますと事件のあつた時指導的地位にあつた参謀將校を彼等が體驗した作戦記録の編纂に出来るだけ多數動員することが理想ではあります勿論之は不可能なことです 來るべき任務に對して軍が準備をして居るのでありますから彼等が其の位置を脱けることは出来ません それにも拘らず昨年の晩秋には若干名の参謀將校を前線から暫くで

はありましたが軍事科學課に呼び寄せることが出來ました。此等の將校は自分自身の體験に基づいてそして又戰場に關する各自の知識に基づいて頗る貴重な援助を與へて呉れました。其の外年長の課員等も亦前線方面に出掛けて前線の地形を自ら視察し又前線の兵士と直接話し合つて文書に依る自分等の知識を補足致しました。戦争が終了致しますれば戦史編纂の人員も著しく増大され仕事は進捗を見るであります。

今次戦争中に於ける軍事科學の研究は冒頭に述べましたやうに外部には一向に華々しく現はれてゐません。後に戦史が發行されても多くの編纂員の氏名は勿論編纂主任者等の名前すらも仲々一般には知れないであります。それだからと言つて此の仕事が功勞の少い仕事だとは申せないであります。此の仕事は戰場で得ました諸經驗を孫子の代に迄殘してやつて彼等も亦勝利を收めるやうに援助してやると言ふ上に貢獻する所があるのであります。



自分の仕事の大部分が人目につかない所で行はれると言ふのは參謀  
將校の運命であるとして見れば我々獨乙軍人の偉大な師シユリーフエン  
は「外見以上の者たらん」と言ふ訓示を述べた時恐らく此の點を考へ  
て居たのでありませう

1556

補 足 的 説 明

獨 乙 クレチュマー大佐

ポーランド戦に於ても昨日の體驗を明日の戦闘に利用することに勉めました 即ちライヘナウ將軍（私は嘗て其の幕僚でありました）も亦毎日の如く第一線に至り師團長に面會しました 夫れは單に戦術上の指示を與ふるのみではなく又命令實行の監督の爲でもありません 寧ろ經驗を如何に利用するかと言ふことを教へる良き先生として面接したのであります

或る戦闘に依る結果と他の戦闘に依る結果を比較研究し其の有利なる成果の原因を深く探究して直ちに之を他の方面及將來の戦闘に利用するやうに備へたのであります

フォン・ベリ大佐の屬する課に於ても常に机上に於て其の結果を綜合判斷し以は編制を變更することを斷行しました

私の體驗しました例話を更に申し上げますならば軍司令部、軍團司

令部、師團司令部と言ふやうな第一線に近い方面から電信、電話、自動車、側車、飛行機等凡ゆる交通機關を利用して幾多の經驗を収集しました。そして其の結果を直ちに利用しました。

一例として軍司令部の移動に就て申しますれば同一の期間内に對波作戰には六箇所宿營地變更を行ひましたのに對し對佛作戰では二十四箇所と言ふ程神速な司令部位置推進を行ひました。

更に例を上げれば對波戰に於ては機械化師團は三聯隊を以て編制せられて居りましたが其の運動性發揮の爲對佛戰では之を二聯隊編制に変更せられました。又軍の部隊の教育の技術的な方法等に於ても經驗に依り直ちに改善向上を圖りました。

又新しい發明も熱心に續けられ完成されました。例へば地雷搜索器の如きは其の一例であります。或は急降下爆撃の更に積極的なるを必要とすることを痛感し又地上部隊特に機械化部隊との連絡は更に密接なるを必要とする事を強く經驗致しました。

質 疑 應 答

(問) 講演中にありし參謀本部に於ける軍事科學工作課に勤務せる

十六名の年老いたる人々とは現役なりや

(答) 召集將校なり 此等は前大戰に於て偉大なる功績あり且戰史

編纂に既に體驗を有する立派なる將校なり

(問) 獨乙には戰線に教育隊の如きものありや

(答) 斯かるもの無し 但し總ての指揮官は常に經驗を直ちに教育

に利用する如く努力しあり

(問) 後方へ報告すべきは何々なりや 又如何なる時期なりや

(答) 勉めて速かに行ふ如く努力しあり 又彼我の態勢等の狀況上

りも寧ろ體驗中印象特に深きものを先づ報告するに勉む

(問) 兵器實驗部隊の如きものありや

(答) 無し 但し敵側の新兵器等を鹵獲したる時は速かに後送せり

對波戰に於て戰前よりポーランド側に對戰車砲彈丸に特殊なる

り  
もの有るを知り戦鬪第一日之を鹵獲して直ちに後送せしことあり

1560